SANMEI Team TARO PLUSONE

TARO SEKIGUCHI RACE REPORT

2020 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ 最終戦
第 52 回 MFJ グランプリ スーパーバイクレース in 鈴鹿

三重県・鈴鹿サーキット（1 周 5.821km）
クラス：JSB1000 マシン：BMW S1000RR タイヤ：BRIDGESTONE

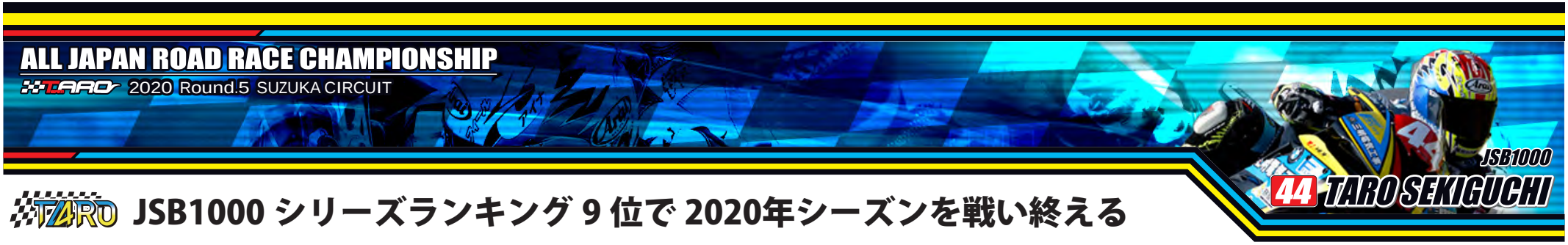
2020 年 10 月 31 日（土）天候：晴れ　コース：ドライ
レース 1 予選：12 番手（タイム：2 分 07 秒 939）　決勝：10 位

2020 年 11 月 1 日（日）天候：晴れ　コース：ドライ
レース 2 予選：13 番手（タイム：2 分 08 秒 199）　決勝：9 位

観客動員数：21,500 人（2 日間合計）

FUJITA　Rider's Garage　ファミリーロッジ 旅籠屋 はたごや

バイク館 SOX　2りんかん　Burgundy　府中不動産　SPEED MASTER　ARAI　A-big Motorrad　Arai HELMET　功和軍団　Kawasaki CS2　WATER-TEC INC.　SDG　INOMATA　HYOD　alpinestars　BRIDGESTONE　RK TAKASAGO CHAIN　NGK SPARK PLUGS　FIXFIT　ADVANTAGE　WIND JAMMERS　ACTIVE　Printec　PLUS μ Brake Factory　S&E PRECISION　SHORAI　MDF　999.9　RACING MAX 府中店　R.C.S.　BEEPRESSO　九電工　Team PLUS ONE　TK LABO　Body Crystal　MotoUnited



JSB1000 シリーズランキング 9 位で 2020年シーズンを戦い終える

コロナ禍の中、８月に開幕した全日本ロードレース選手権。第２戦岡山が台風で中止になったこともあり、全４戦８レースで JSB1000 クラスは争われた。最終戦の舞台は、紆余曲折あったが、例年通り、三重県・鈴鹿サーキットで行われた。

今回も木曜日の特別走行からレースウイークがスタート。３月にシェイクダウンで走っていたが、今のパッケージで走るのは初めてとなるだけに、前戦ツインリンクもてぎの足回りをベースに鈴鹿仕様にアジャストして走り出し、いつものように走り込んで細かいセットを詰め、レースを見据えてタイヤを決め、アベレージタイムを上げて行った。木曜、金曜と風は強かったものの天気に恵まれたこともあり、順調に周回を重ねた。タイムは、2分08秒407まで出ており、公式予選で２分07秒台に入れたいところだった。

土曜日の公式予選は、２度赤旗が出る波乱があったが、関口は、大きな影響を受けず、まずセッション序盤は木曜日からの流れでミディアムタイヤの新品を履きタイムアタック。中盤から確認のためリアにハードタイヤを入れタイムアタックを行い、目標の2分07秒台に入れ自己ベストを更新することができていた。JSB1000クラスとはいえ、関口のマシンは限りなくST1000に近い仕様。車体がスタンダードのためタイヤと車体のバランスを取るのが難しい。

14周で争われたレース１。今年は、スタートがうまく行っていなかったが、今回は、まずまず。前に行かれたライダーをすぐにパスし、オープニングラップは、11番手でホームストレートに戻って来る。レース序盤から岩田選手との10位争いとなり、パッシングポイントを探って行った。そのままレース終盤になると 12周目の130Rで岩田選手がコースアウト。前に出た関口は、そのままチェッカーフラッグを受け10位に入賞した。

日曜日は、朝のウォームアップ走行でマシントラブルが発生してしまう。さらに転倒者があり赤旗が提示されたため早めにセッションが終わってしまったため３周くらいしかまわれなかったが、マシンはレース１と同じセットで臨むことを決めていた。

レース２は、レース１より２周多い16周で争われた。スタートは、まずまずだったが、秋吉選手と生形選手に前に出られてしまう。２周目に何とか前に出るが、その間に前のライダーに引き離されてしまう。８周目に前を走っているライダーが転倒し、９番手に浮上。レース終盤に後方から追い上げて来たライダーにかわされるものの、翌周に、そのライダーがマシントラブルに見舞われると、再び前に出て９位でゴール。シリーズランキングでも９位となり、トップエントラントの資格を得て2020年シーズンを無事終えることになった。

■関口太郎コメント

「最終戦鈴鹿はレース１を10位、レース２を９位でチェッカーフラッグを受け、シリーズランキング９位という結果を残すことができました。スポンサーの皆さま、応援していただいているファンの皆さんのおかげで無事に戦い抜くことができました。本当にありがとうございました。2020年シーズンは、Team TARO として JSB1000クラスを BMW S1000RR でチャレンジしました。不安要素もありましたが、チームスタッフを始め、多くの方に支えていただきチームとしても成長できたシーズンになったと思います。この経験を生かして、2021年シーズンも新たなステップを踏めるよう全力でチャレンジを続けて行きますので、引き続き応援をよろしくお願いいたします」

このリリースへのお問い合わせは、
下記メールアドレスまでお願いいたします。
E-mail : tarosekiguchi@gmail.com